

校番	209	学校名	呉市立呉高等学校	校長氏名	越智博司	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-----	----

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

呉市立唯一の高等学校としての存在意義をふまえて呉の教育を実現し、郷土の未来を切り拓く心豊かでたくましい人材を育成する。

2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

- ① 組織的・系統的な質の高い教育活動により、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばし、生徒の高い志や夢を確実に実現させる。
- ② 「自立」と「自尊」の精神を育み、郷土や社会に貢献する人材を育成する。
- ③ 目標管理による組織マネジメントを充実し、自律的・機能的な学校運営組織を確立する。
- ④ 情報発信を積極的に行い、保護者や地域に応える教育活動を展開する。

3 環境分析

(1) SWOT分析

外部環境	O （支援的要因）	S （強み）	内部環境
	T （阻害的要因）	W （弱み）	
	①小・中学校、高等専門学校、大学等が隣接している。 ②PTAが学校に協力的である。 ③市呉の存在意義が注目されている。 ④学習指導要領改訂により、思考力・判断力・表現力の育成が重視されている。 ⑤呉市の施設使用が無料である。 ⑥市内の各団体から支援を期待されている。 ⑦予算等は県立学校より支援されている。	①総合学科の特性を生かし、多様な選択科目を設定している。 ②挨拶、マナー、時間厳守、服装等の生活規律が徹底している。 ③地域・社会に貢献しようとする意欲が旺盛な生徒が多い。 ④部活動が活発である。 ⑤教職員の教育に対する熱意は高い。 ⑥オープンスクールの参加者が多い、志願者倍率が高い等、中学生の本校への進学希望者が多い。	<p>「支援的要因と強みを生かす」</p> ○近隣の教育資源等の活用を促進する。 ○PTAと連携し、学校と保護者のベクトルを合わせる。 ○総合学科の特性を生かし、思考力・判断力・表現力を育成する。 ○生徒の学力の向上、規範意識や社会性、奉仕の精神を涵養する指導を充実し、市民等から誇りに思われる生徒を育成する。 ○進路実績を向上させる。 ○部活動の実績をより高める。
	①高等学校出身の指導主事等からの指導助言を受けにくい。 ②県立学校教員と交流の機会が少ない。 ③高校生活が楽しければよいと考えている保護者が比較的多い。 ④市民、中学校は三校（呉三津田、呉宮原、広）への信頼度が高い。	①総合学科としての呉高等学校になってから歴史が浅い。 ②多様な選択科目の設定が進路指導に生かし切れていない。 ③科目選択が安易な傾向にあり、学力向上につながっていない。 ④生徒が大学受験において一般入試より推薦入試を希望する傾向がある。 ⑤さらに高い夢を実現しようという意欲や態度が乏しい生徒が多い。 ⑥家庭学習時間が少ない。	<p>「阻害的要因と弱みを克服」</p> ○校内授業研究を充実するとともに他校の公開研究授業等に積極的に参加する体制を整える。 ○「産業社会と人間」「フロンティアⅠ・Ⅱ」をより一層充実する。 ○教育相談活動を充実する。 ○学校の方針等や情報を積極的に発信する。 ○様々な機会を捉えて保護者に進路実現に係る啓発を図る。 ○自主的、自立的体験活動を推進する。

(2) 戦略の決定 <生徒、保護者、教職員、市民が誇りを持てる学校の構築>

- 1 「数字で測れる学力」は、数字で結果を出さなければならない。
「学校教育の成果は目に見えるものばかりではない。」という人がいる。確かに数値で測れない成果はあるが、成果を求めない教育を肯定することは、自らの職責に対しての言い訳に他ならない。
「授業のめあて」や「活動の目標」はまさに成果の物差しであり、成果に対して教員は生き甲斐を感じる。
- 2 分掌、学年、教科等の担当集団は、チームで取り組むことが大切である。個々の力量で職務を遂行するよりも総合力を発揮した方がより円滑かつ機能的に進行する。役割分担はしていても、隙間はできる。その隙間を埋め合うのがチーム力である。

① 新教育課程への円滑な移行

平成 25 年度から学年進行で実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえた新教育課程への円滑な移行を図る。

② 進路実現できる学力をつける。

生徒の自律的学習者としての意欲と態度を養い、進路目標を実現できる学力の向上を図るため、教科主任で構成する学力向上対策会議を定期的開催する。

教科経営計画の策定並びに具体的達成目標の設定とその評価と改善を行う。

③ 自立した社会人としての規範意識や社会性を涵養する。

全教員が生徒指導の指導規準を共通理解し、ぶれのない指導を行う。

自主的、自立的体験活動を推進する。

生徒会等、自治的活動を活性化する。

④ 総合学科としての特色を生かし教育活動を充実する。

生徒一人一人が、自立した社会人・職業人としての将来を展望し、必要な科目を適切に選択できる教育課程を編成・実施する。

めあてや系統性を明確にした「産業社会と人間」「フロンティア I・II」の指導を充実する。

教育相談活動を充実する。

⑤ 部活動を充実する。

各部のめあてや達成目標を明確にし、その達成に向けて充実した取組みを行う。

⑥ 学校情報等を積極的に発信するとともに学校や地域社会、各種団体等へ貢献する。

4 目標の設定

学校経営目標

達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当 分掌
		H23年度	H23年度	H24年度	H25年度	

1 進路実現できる学力の向上

教員の指導力を向上する。	授業改善研修会・研究授業等の回数	6回	5回	5回	5回	教務 研修
	授業の肯定的評価 (授業評価アンケート)	71%	60%	70%	80%	教務 研修
	教科経営計画(教科経営法の数 値目標)の達成度	55%	平均 80%	平均 85%	平均 90%	進路 指導
	国公立大学合格者数	15名	30名	35名	40名	進路 指導
自律的学習者を育成する。	平日家庭学習時間(1日当り)	5月 1年38% 2年31% 3年29% 11月 1年43% 2年36% 3年30%	1年90分 以上 2年120分 以上 3年180分 以上 の生徒が 50%	1年90分 以上 2年120分 以上 3年180分 以上 の生徒が 55%	1年90分 以上 2年120分 以上 3年180分 以上 の生徒が 60%	進路 指導
	朝学習参加率(運動部等の朝練 習参加者以外)	1年33% 2年21% 3年30%	30%	40%	50%	進路 指導
	一人当たりの年間読書量	10冊	平均 18冊	平均 18冊	平均 18冊 以上	教務 研修
模試に対する指導体制 を充実する。	各学年の模試偏差値が48以上 の人数の割合	1年 30% 2年 14% 3年 8%	1年 25% 2年 20% 3年 25%	1年 25% 2年 25% 3年 25%	1年 30% 2年 30% 3年 30%	進路 指導

2 自立した社会人としての規範意識や社会性の涵養

自立した生徒を育成する。	1日当たりの平均遅刻者数	1.4人	1.0名	1.0名	1.0名	生徒 指導
	特別指導の回数 (携帯電話によるものを除く)	10件	6件	6件	6件	生徒 指導
生徒会主体の行事を充実させる。	生徒会主体の行事の満足度	86.4%	80%	85%	90%	生徒 指導
「産業社会と人間」「フロンティア I・II」を充実させる。	授業の肯定的評価 (授業評価アンケート)	—	—	70%	80%	教務 研修
教育相談活動を充実する。	定例の教育相談日の日数	15.4日	1クラス平均15日以上	1クラス平均15日以上	1クラス平均15日以上	生徒 指導

3 部活動の充実						
部活動の実績を上げる。	中国大会以上出場者数	71名	20名	25名	30名	生徒指導
	中国大会以上出場の部の数	6団体	—	5団体以上	5団体以上	
部活動を活性化する。	部活動加入者の出席率 (顧問が十分活動したと判断した生徒の割合)	90%以上の部が6割	90%以上の部が7割	90%以上の部が8割	90%以上の部が9割	生徒指導
	部活動加入率	—	—	70%	80%	
4 学校情報等の積極的発信及び学校や地域社会、各種団体等への貢献						
学校情報を積極的に発信する。	学年・進路の通信等の発行回数	学年平均4回 進路平均6回	—	各8回	各8回以上	総務企画
地域や社会に貢献しようとする態度を育成する。	ボランティア活動を通して自尊心を高めた生徒の割合	—	—	60%	70%	総務企画
保護者や学校関係者評価委員から教育活動を肯定的に評価される。	保護者、学校関係者評価委員の肯定的評価の割合 (保護者アンケート、学校関係者評価委員会での評価)	82%	80%	85%	90%	総務企画

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当分掌
1 進路実現できる学力の向上			
教員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に対応したシラバスを作成する。 ○授業交流週間、研究授業に関する校内研修会を行う。 ○「ひろしま学びのサイクル」を意識した授業を展開する。 ○教科会を月1回以上、継続して行う。 ○定期考査等の作問能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領実施に向けた教員の授業力を向上する。 ○生徒の進路実現に向けた指導力の向上を図る。 	教務研修
	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般において、言語活動の充実を意識する。 ○「言語活動の充実」を意識した授業に係る学習指導案を作成し、研究授業で成果や課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実を通して、生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばす授業力を身に付ける。 	教務研修
	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上対策会議において、各教科・各学年主任と連携して、経営法の実施状況について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科会と連携して各教科の経営マネジメントを確立する。 	進路指導
	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導年間計画にもとづいて取り組みを行うとともに、国公立大学合格に向けた指導計画を5月初旬に別途作成し取り組みを推進する。 ○特進クラス担当者連絡会議を毎学期行い、取り組みの方向性を共有するとともに、個々の生徒の状況を把握し必要に応じて進路指導部による個別面談を行う。 ○難関大学合格プロジェクトチームを発足させ対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学に一般入試で30名合格できる授業・定期考査・課外補習・模試対策などの体制づくりを行う。 ○難関大学の合格者を出す。 	進路指導
自律的学習者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の改善を重点課題ととらえ、量と質の向上を図る。そのために、学習時間の集計を毎週行い、目標値を達成していないクラスや個々の生徒をピックアップして対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に自己の生活状況や学習状況を客観的に把握させるとともに、学習すべき内容や学習方法を理解させることによって、自律した学習者として成長させる体制を確立する。 	進路指導
	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習の実施要項を作成し、生徒が行いやすいように条件整備する。 ○生徒会と連携し、推進のためのキャンペーンを組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習を定着させ、自律的学習に向けた習慣づけを行う。 	進路指導
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館経営計画を策定する。 ○学校図書館利用教育を充実させる。 ○図書委員会を中心に、読書活動を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書を通して教養としての知識やものの見方や考え方を知り、卒業研究等で学習を深めるために積極的に文献を調べる生徒を育成する。 	教務研修

模試に対する指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○早朝・放課後補習を全学年で実施し、上位層の学力向上を図る。 ○学力向上のための会議を年間7回、進路検討会議を1・2学年は各2回、3学年は3回実施し、学力分析を行うとともにその向上を図る。 ○各学年とも生徒の個人カルテを作成し、教育相談や三者懇談等において活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科会、学年会と連携して、模試の前後の取組みを組織的・内容的に充実させ、偏差値を向上させる体制をつくる。 	進路指導
2 自立した社会人としての規範意識や社会性の涵養			
自立した生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会と連携し、規範意識に関わるキャンペーンを年間計画に位置付け、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ①遅刻撲滅キャンペーン ②授業規律確立キャンペーン ○教職員の共通理解を図るために生徒指導規程及び生徒指導マニュアルの整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会が主体となり、生徒自らが基本的な生活習慣の確立と規範意識の徹底について考えることができる体制を作る。 	生徒指導
生徒会主体の行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会が諸活動(体育祭・文化祭・クラスマッチ)の企画運営の中心的組織になることにより、充実感及び達成感を味わわせ、生徒それぞれの責任感を高める。 ○各行事後に生徒会によるアンケートを実施し、集計結果を分析し広報する。 ○教職員が評価を行い、よりよい活動となるよう継続的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒中心の自治活動の中で、「自立と自尊の精神」を身に付け、社会を構成する一員としての自覚を高める。 	生徒指導
「産業社会と人間」「フロンティアⅠ・Ⅱ」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」と総合的な学習の時間の系統的な学習プログラムを完成させる。 ○生徒の発達段階に応じた表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「産業社会と人間」と総合的な学習の時間を関連させた系統的な学習プログラムを再構築し、本校独自のキャリア教育を確立する。 	教務研修
教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教務研修部・進路指導部と連携し定期考査中の教育相談活動を継続し、内容の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ①実施状況を教務研修部と連携し集約する。 ②実施の際に生徒指導部で把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査中の教育相談活動を定着させるとともに、全教職員が教育活動全ての場面で教育相談を意識した指導を行い、生徒理解を深める。 	生徒指導
3 部活動の充実			
部活動実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○各種大会での上位入賞及び中国大会出場人数及び部の数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会で活躍できる部を育成する。 	生徒指導
部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○大会やコンクール等の結果を迅速に伝達し、生徒・保護者へ広報するとともにHPへ反映させることにより、部活動の意義の広報を図る。 ○顧問へのアンケートを年2回(6月、10月)に実施し、その結果を集約・広報する。 ○部活動の出席状況を生徒会主体で集約し、部活動活性化の手立てにする。 ○部活動加入状況を調査し実態把握に努めるとともに、未加入生徒へ教育相談等を通して加入を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文武両道をめざし、学習にも部活動にも意欲的に取り組む生徒を育成する。 	生徒指導

4 学校情報等の発信及び学校や地域社会、各種団体等への貢献

<p>学校情報の積極的な発信</p>	<p>○保護者を対象にする各種通信手段・内容を充実する。 ①各学年・進路指導部と連携し、学年通信・進路だより等の各種通信を計画的に発行する。 ②中間考査の成績表を郵送する際、通信等の情報を直接保護者に届ける機会として活用する。 ○数値で教育活動の現状を見るシート「データで見る呉高等学校の教育」を作成し、学校情報のデータ共有及び発信に活用する。</p>	<p>○保護者や地域の方々に発信した情報により、本校の教育方針や生徒の活動状況が十分理解されることが、本校の教育活動への肯定的な評価につながるようにする。 ①学校HP及び学年・進路等の通信の内容を充実する。 ②教職員・生徒が自校に誇りを持って、ビジョンやよさをアピールする。</p>	<p>総務企画</p>
<p>地域や社会に貢献しようとする態度の育成</p>	<p>○ボランティア活動の参加を通して自尊感情を高める取組みを推進する。 ①生徒指導部と連携し、生徒会の掲示版にボランティア活動のコーナーを設け、生徒による広報を充実させる。 ②1学年と連携し、1年次に「ボランティアの意義」及び「本校のボランティア」についてオリエンテーションを行う。 ③2学年と連携し、2年次に「ボランティア活動の意義の理解」をテーマにしたホームルーム活動を実施する。 ④生徒指導部と連携し、生徒総会で活動報告及び活動方針の説明を行う。</p>	<p>○ボランティア活動等の地域での体験活動を通して、生徒の自己存在感を高めることで自尊の精神を養うとともに、地域の一員としての自覚を高める。</p>	<p>総務企画</p>
<p>保護者や学校関係者評価委員からの教育活動の肯定的な評価</p>	<p>○保護者や学校関係者評価委員が本校の教育活動の状況を十分理解できるように、学校HP、各種通信での広報、保護者参加の学校行事、学校関係者評価委員会でのわかりやすい説明等の充実を図る。</p>	<p>○本校の教育活動の状況を保護者や学校関係者評価委員が十分理解できるような取組みを充実させるとともに、保護者や学校関係者評価委員の意見を学校経営の改善に生かすことで、本校の教育活動に対する信頼を得る。</p>	<p>総務企画</p>